

県連主催自然観察会

11月7日(日) 高松山

参加者 30名(やまぼうし 9名)

竹野弘、竹野栄、熊谷修、熊谷陽
円山、川村、上別祖、小林、吉岡俊



コースタイム

JR 可部駅前 10:00→

可部高校グランド横登山道入口 10:25→頂上 12:35~(昼食)~13:30 解散

(やまぼうしは熊谷氏の住居跡ならびに墓地の方面に下山)

○

11月の初旬にしては暑いくらいの陽気登山道入口で、可部カラスの会 山下容富子講師より高松山の木々および草花の説明が始まる。

説明書をいただき、実際の草花にカードをつけての講話。クコ、キランソウ、ムクノキ(研磨するとき使用)、テイカカズラ(大木を見つけるまで地面を這いずり回る)と聞いて植物の世界も生き抜くのは厳しいものと感じる。

時期なので、どنگりの説明がある。説明書に22種類あり、図表を見れば違いは分かる気がする。木として印象に残ったのはナラガシワ(ウイスキーの樽)、ホオノキ(下駄、まな板)、シナアブラギリ(油紙に)、ムラサキシキブ(紫色の実が美しいとあるが、材は固く粘りがあり農具工具の柄になる)、ウツギ(材は固く木釘となった)、クリ(鉄道の枕木、土木建築材で加工しやすく耐久性がつよい)であった。

下山後、熊谷家の住居跡と墓に立ち寄る。墓には戦に敗れ身体を持ち帰るのが困難なため、腕を切り取り祭っているとある。

最後に、この度、竹野さんにいろいろお世話になりました。この書面にてお礼を申し上げます。有難う御座いました。

(記 吉岡俊二)

○

可部の高松山で自然観察会との事、「チョット行ってみようか」と、8月終わりの気温34℃猛暑の中を2人で下見?町家の風情の残る路地をたどり登山口へ。花の少ない時期だし樹木には説明板もありこれだけ書いてあるのに何を説明されるのだろうと少し疑問を感じて帰る。

しかし参加してびっくり山下容富子女史、メガホンを片手に資料カバンを提げて高松城の歴史や「石州街道と出雲街道の合流点で繁栄してきた可部の街並みには鋳物工業が発達し火事が多くうだつが上っていったでしょう」と今通ってきた街の話そしてこの山にある高木の花はあの山の向かい側から見る事が出来るとか、草木の説明のとても詳しいのに感心。

最近とみに記憶力の低下にとまどっている私としてはすごい人だと舌を巻く。

参加者が多く助手がおられたら良いのと思ったが“自然観察会”ってこんなのか山の花大好きな私だが植物学者になる訳ではなしと甘くみていておおいに反省、勉強させていただき、下山時のタカノツメの黄葉が秋を実感できた実りの多い一日でした。

(記 竹野栄子)